



生命尊重推進の会 天使のほほえみ

会報 第26号

イラスト © あべまりあ

発行所
天使のほほえみ

発行人 鎌田久子
編集人 野田滋美

現憲法廃棄、改正、

母体保護法改正、廃棄へ！

理事長 鎌田久子

安倍政権が波に乗ってきた今、日本を解体し続けてきた現憲法一国家の生命の本源を揺るがす現憲法一を今こそ廃棄し、日本の本来持っている力を国民に自覚させ、日本の隆昌をもたらしていきたいと思えます。

明治憲法は明治天皇が四年ものあいだ「臨幸され、お孫さまが亡くなられた事をお知らせしても、最後まで席をお立ちにならずに審議のご臨幸を続けられました。その様に大事に作られた不磨の大典です。

ただ私達理事が大日本帝国憲法を皆で勉強した際、余りに難しい日本語が多く、内容は素晴らしいが消化できませんでした。明治天皇が「了承あそはされた真髓は変えずに、難解の部分で現代の人に解り易く直し、時代に合わせて、明治憲法復元にもっていけば良いのではないかと思います。

かつて日本人ほど生命を尊んでる国民はありませんでした。しかしその日本で、米国が母体保護法（優生保護法）を押し付け、世界で一番恥かしい中絶の合法化が行われ

たままになってしまいました。

本来日本人は中絶をしないで子沢山でした。一人が8人〜14人の子を産んで、「子沢山を悦び」としてきました。それは「先祖を尊び、生命を畏敬する心」でした。「どんなに貧乏でも生まれた子供は育て、国や社会のエネルギーにしたいという日本人の魂」がそこにありました。しかし生命観・国家観が違う米国製の、日本弱体化を目的とした現憲法によって根本から覆されてしまいました。

もう一度日本精神を取り戻す事を、私達はやって行かなければなりません。安倍首相在任中に政治家を変え、母体保護法を改正、あるいは廃棄する、まさに絶好のチャンスです。

今年の一泊研修会はその真髓を学び、今後の運動方針を幹部一同で話し合つて、「安倍政権の内に、子供達の生命を尊ぶ日本を取り戻すための一泊研修会」にしたいと切望しています。

子供も大人も、日本も元気になる、こんな歌が昔ありました。私は

これを口ずさむ事があります。

「太郎よお前はよい子供、丈夫で大きく強くなれ。お前が大きくなる頃は、日本も大きくなっている。子供よ、大人を越えていけ。」

この様な、子供を大切にし、子供に夢を与えることのできる日本を取り戻さねばならないと念じております。



平成二十五年度

一泊研修会のご案内

今年も代々木にて一泊研修会を開催いたします。

日時 11月23日(土) 13:00
〜24日(日) 12:00

場所 代々木

国立オリンピック記念

青少年総合センター

カルチャー棟 工芸室

講師 田下昌明先生

鎌田久子理事長

テーマ 「生命の神秘」

一国のいのち人の生命

会費

- ・ 宿泊の方 6千円(食事込み)
- ・ 10月末までに申し込みの方 5千円
- ・ 通いの方 1日1千円

母体保護法改正、生命尊重、23日夜に交流会、24日早朝に明治神宮参拝等を行います。

全国の役員、会員と熱く語り合い交流を深め、膝を交えて運動拡大の施策を練りたいと思います。

青少年総合センターの80人部屋が取れず、工芸室が取れました。工芸室は定員40名のため、40人で打ち切らせて頂きますので、お早めにお申込み下さい。

お申込みフォームはチラシの裏に付いています。

(チラシをご参照下さい)

お友達をお誘い下さい

年会費 個人	正会員	2千円以上
	賛助会員	5千円以上
	篤志会員	1万円以上
法人	一口	5千円以上

郵便振替口座
00100-6-316987
天使のほほえみ

(住所変更の際は是非ご連絡下さい)

平成二十五年度総会 記念講演会

明星大学教授 高橋史朗 先生

文責 野田滋美

「日本を取り戻す」

— 未来への架け橋、教育再生を —

なぜ日本を取り戻す必要があるかと言つと、戦後の日本人には義眼がはめ込まれているからです。江藤淳さんは「閉ざされた言語空間」の中でこう言いました。「生きた日本人の眼をえぐり取られて、占領軍の眼を植え付けられた。そうしていつの間にかそれが私達戦後の日本人のものになつてしまった。」

又、「占領中に検閲がありました。8月15日の朝日新聞は「赤子吾れ、天皇陛下万歳」という記事を書いていました。その朝日新聞がなぜ大きく変わったのか。それは占領軍の検閲によつて、事前検閲、事後検閲があつて、占領政策に反するものは検閲を受けました。そして、やがて占領軍の検閲の眼を自分達朝日新聞が意識して、占領軍の眼で物を書くようになった。」とも言つておられます。つまり、それが「義眼」をはめ込められたと言つ事になるわけです。尾崎一雄さんは「虫のいろいろ」において、「ガラスの玉の中

にノミを入れると最初はジャンプするが、だんだんジャンプしなくなる。そうするともう蓋を開けても二度とジャンプしなくなる。」と書かれています。それと同じく、占領軍によつて義眼をはめ込められ、もう占領軍はいないのに、占領後の日本人は二度と飛ぶことができない。日本人がそういう束縛の中に置かれていると言つていいです。

目に見えない占領軍の眼を意識して文章を書くようになった。戦後思想、戦後教育の問題は、この『怯え』の様な意識から生まれている。」と言えらるよう。

歴史認識における対日包囲網

慰安婦問題、歴史教科書問題、靖國参拝における首相の言動は、米国議会調査局の報告によれば、「米国と中国と韓国から監視されているといわれている。東アジアの混乱は米国の国益を害する恐れがある。安倍首相は侵略の歴史を否定する修正主義

者の見方を持つていて、強固なナショナリスト、国粹主義者であり、下村博文文科相ら閣僚は超国家主義者だ。」と言つてます。

シーファー前駐日大使は「河野談話の見直しを受け入れるアメリカ人は全くいない。」と言いました。ニューヨークタイムスやワシントンポスト等の主要誌も同じ論調です。

どんなに橋下市長が「強制連行は無かった」と言つても耳を貸さない。それは日本人に対する不信感が根ざしているからです。



米国下院で従軍慰安婦の決議がなされました。その文章は次の様になっています。

「日本の慰安婦制度というのは、残忍さと規模において、前例を見ない四肢切断して、死亡、又は、自殺まで引き起した強姦、強制中絶、侮辱のシステムであり、20世紀における最大の人身売買事例の一つである。」

私は、昨年12月と今年2月3

月にニューヨークへ行きました。が、ニューヨーク州、ニュージャージー州等、次々に従軍慰安婦の像が建てられています。そして、韓国の朴大統領が米国議会で演説をし、「歴史に目を閉じる者は未来を見る事ができない。日本が正しい歴史認識をしなければならぬ。」と言いましたが、米国の議員は満場で一斉に拍手しました。

つまり、歴史の問題は中国、韓国というアジアの問題だけではなく、アメリカも全く同じ認識に立っているという、まさに対日包囲網でしつかりと連携しているという事を認識しなければなりません。

中国が尖閣諸島を始めとして、これまでに無かった行動を取っている。中国共産党の中央宣伝部が主要メディアに対して、「尖閣だけでなく、沖繩も使つて日本に圧力を掛ける」という通知を出した。

人民日報傘下の情報誌「環境時報」によれば、「日本は武力で併合した沖繩を放棄しなければならぬ。国際法から言つて沖繩は日本のものではない。」という記事を相次いで掲載しています。

中国外務省傘下の外交専門誌「世界知識」は「日本の合法的主権は沖繩には及ばない」と明確に主張する様になってきました。

まさに日本に対して、非常に厳しい状態が今生まれつつあります。

義眼」からの脱却なくして 日本再生はない

「義眼」から脱却しなければ日本を取り戻すことはできません。「義眼」とは何か。それは勝者が敗者を裁いた占領軍、連合国の眼であります。その「義眼」には偏見があります。その根源にある偏見はどういうものか。

①長崎・広島に原爆投下された事に対し、米キリスト教団体は「人道に反する」と抗議しましたが、それに対するトルーマン大統領の回答は、「獣には獣に対する様に對処しなければならぬ。」でした。人種偏見が明白です。

②マッカーサーは「日本人の精神年齢は12歳だ」と言い、「精神の復興と性格改善が行われなければならない」とミズリー号上の声明で言った。



私は30才の時アメリカでG
H Q 文書240万ページを研究
しましたが、なぜマッカーサー
が日本人の精神年齢が12才だ
と言ったかの根拠をその時は発
見できませんでした。

そのため、昨年12月と今年
2月、3月にニューヨークへ行
つてコロンビア大学に「太平洋
問題調査会」の資料がありそれ
を調査したところ、その資料の
1944年12月16日、17
日にマッカーサーの発言に影響
を与えた会議がニューヨークで
開かれていた事が分かりました。

「占領後の日本に対する政策を
検討する会議」で、日本人の性
格はどうなっているか、日本人
の国民性はどのようなものなの
かについて、「日本人の性格構造」
をテーマにして40人の専門家
が集まって議論した会議でし
た。精神分析学者、心理学者、
文化人類学者、こういう人達が
議論しました。

その結論で驚いたのは、「アメ
リカのギャングスター（直訳：
ギャングの一味、チンピラ？）
（私は不良少年と訳した）」と日
本人の性格構造は28項目の共
通点がある。」という件りです。

精神分析学者は「日本人の精
神構造は人間の発達段階から言

うと少年期である」と言った。
マッカーサーが12才と言った
のはここから来たものと思われ
ます。そして、「日本人の国民性
日本人の性格の特徴は三つだ。
①原始的、②未熟・幼稚、③精
神的感情的不安定、この三つが
日本人の性格の特徴だ。そして、
その根本は日本の伝統的な子育
てにある。小さい時からトイ
レットトレーニングが日本人を
おかしくした。」と言っています。

「トイレットトレーニング」
という言葉が次々出て来る。北
海道の下田昌明先生に確認しま
したら、「そんなものは聞いた事
がない」との回答でした。専
門家が聞いた事がない事を極度
に取り上げて、「不安感や恐怖感
を子供に押し付けてきた。」と言
っている。そして「それがトラウ
マとなって、集団的強迫神経症
になった。そして侵略戦争とし
て爆発した。」と結論付けてい
る。

私達日本人の良識で考えれば
とんでもない極論です。でもそ
れがもともと「ある人」がそう
言い出して、全体の会議をリー
ドして全体の共通理解に成って
行ったというプロセスが占領文
書に残っているんです。

私はこれを客観的な資料とし
て世に問おうと思っています。ど
ういう議論が行われて、アメリカ
人が、日本及び日本人の国民性を
どのように見たか、なぜマッカー
サーは日本人の性格を改善しな
ければならないと考えたか。それ
は日本人の性格を誤解したから
です。

今回、冒頭に申し上げた「代表
的日本人」とか「武士道」の本に
は、茶道、華道、剣道、柔道等の
道の文化、日本の心、日本人の文
化的な精神、そういう大事な事が
紹介してありますが、残念ながら
占領軍はそれを誤解し、理解しよ
うとしました。

**日本の精神的武装解除が
占領政策の目的**

なぜそう言つ事になったか。実
は日本が戦争に負ける前に、米國
陸軍情報部が対日心理戦とい
うのをつつとやっていた。アメリカ
のバーンズ國務長官が「精神的武
装解除は日本に民主主義の自由
な発達を要請する事にある。」と
言いました。「精神的武装解除」



をする事が占領政策の目的だつ
たのです。

対日心理戦ハンドブックには
「敵の精神に打撃を与える無形
の武器」「相手の考えや行動を支
配する」「相手の思考過程に影響
を与えるのみでなく、アイディア
をその思考の中に微妙に組み込
んでしまう事もできる無形の戦
略」と書かれています。

これがまさに「義眼」です。日
本人はその対日心理戦の中で義
眼をはめ込まれた。

ハンドブックには「日本人の国
民性に関する覚書」も書かれてい
ます。ルース・ベネディクトは日
本人の国民性を研究するために
雇われた人です。この人の「菊と
刀」はこの背景を抜きにして「名
著」だと言われています。

しかし、この12章は子育ての
部分で、「子供は学ば」となつて
いますが、これは英国社会人類学
者のゴラーの本に基づいてい
ます。ゴラーが日本の子育てを
誤解した。

日本人の精神的武装解除とか
義眼をはめ込む心理作戦をやつ
てきたフロの人達が、民間情報教
育局という、戦後の教育改革を担
う幹部になった。対日心理戦に精
通した幹部が教育改革の幹部に

なった。戦後の教育改革は「日
本人の頭の切り替えと再教育」、
まさに日本人に義眼を植え付け
るという事をやった。



日本人の「国民性」に起因する、
「軍国主義」、「超国家主義」へ
の反省を促す「義眼」――
その「義眼」をはめ込むため
のキーワードは「軍国主義」と
「超国家主義」です。その名の
下に全てを否定した。それは、
日本人の国民性に根差している
理論としてすり込む戦略です。

具体的な義眼のはめ込みの手段
は次の通りです。
①WGIP（ウォーギルトイ
ンフォーメーション）プログラ
ム）

「戦争についての罪悪感を植
え付ける情報宣伝計画」という
意味です。戦後の世代が教えら
れた太平洋戦争史というのはそ
の中で作られたものです。太平
洋戦争史を書いたのはブラック
フォード・スミスという人で、
この人はもともと対日心理戦を

やっていた人です。そこから民間情報教育局に来た。太平洋戦争史は「軍国主義の罪を暴露したものだ」と書いてありますが、戦後の若者はこれを教わった。アメリカ人が書いた太平洋戦争史を、自国の物語として教育する事を強要された。これが戦後の歴史教育の出発点です。

当然、勝者が敗者を裁いた太平洋戦争史ですから、それを学ばずばほど自虐史観になっていく事は当然の事です。その延長線上にありますから、領土、領海が分るのが高校生の僅か2%もないという現実になっています。

②OWI(戦時情報局)の国民性研究チーム

OWIの中で日本の国民性を研究して、それを占領政策に生かそうというのが国民性研究チームです。そこに雇われたのがルース・ベネディクトです。そのチームのバイブルにしたのが前述の英国人ゴラーの書いた本です。この人の書いた論文が偏見に満ちたものです。その結論が「伝統的子育てが侵略戦争の原因だ」としているのです。



③教師用指導マニュアル「新教育指針」

戦後の教師が最初にマニュアルとして大事にしたのが「新教育指針」です。昭和21年5月発行。日本の教育者達が30万部以上飛ぶ様に読んで、輪読会をしたものです。

「日本の現状と国民の反省」

「日本の現状と国民の反省」
 ・どうしてこの様な状態になったか。
 ・日本をこの様な状態にさせた原因は何だろうか。
 ・その考え方に間違いがあつて、こんな状態になった。
 ・指導者達が誤りを犯したのは日本人のものの考え方に多くの弱点があつたからだ。
 つまり、日本の国民性に問題があつたので、国民全体が深くこの点を反省する必要がある。

・特に教育者はその日本人の欠点とか弱点を反省しなければならぬ。
 ・日本はまだ十分に新しく成りきれず、古いものは封建的と言われる生活が残っている。
 ・日本国民は人間性、人格、個性を十分に尊重していない。
 ・日本国民は批判的精神に乏しく、権威に盲従しやすい。

・日本国民は合理的精神に乏しく、科学的水準が低い。
 ・日本人は一人善がりであり、おおらかな態度が少ない。

皆様、どうでしょうか。先日、大

学で今までの歴史上の人物でどういう教育者を尊敬していますか、と問うた所、吉田松陰と答えた人がいました。吉田松陰は塾生に一人一人の個性を尊重した教育をやった。「個性を十分尊重しない」と書いてあるが、そんな事はありません。江戸時代の寺子屋の教育だけを見て個性を尊重していた事は疑う余地もありません。

「合理精神に乏しく、科学的水準が低い」と言っているが、ならばこんなに沢山のノーベル賞学者が日本から生まれるはずがない。

そして、日本人の欠点はかり強調して、その後に「戦争の責任は国民全体が負うべきであり、国民は世界に向つて深くその罪を謝するところがない」と言っている。罪を謝するといふ事は連合軍からの要求をむしる進んで積極的な態度をもって、その指令を履行し、新しい日本を建設することで行わなければならない。とあります。こういう所で戦後教育が開始された事をしっかりと押さえていかねばなりません。つまり、戦後の教育者達は、日本

人の国民性を反省して、日本人の歪んだ性格を改善しなければならぬ、という考え方に乗つてスタートした訳です。

菊と刀の幻想

なぜ『菊と刀』に注目しているかと言つと、「日本を取り戻す」というとき大事なものは倫理と道徳です。戦前、日本は道義国家と言われていました。武士道は自分を律するという克己、高校生は己に打ち克つという克己に注目している訳ですが、道義国家という事は「内なるモラル」、自分で自分を律するという倫理、道徳が非常に優れた民族だったから、道義国家日本と言つてきた訳です。



しかし、『菊と刀』はその「倫理」の体系を「責務」と「自己鍛錬」の体系の2つに分けた。軍国主義によって恩・道義が天皇に対する「忠」に置き換られ、国粹主義者がプロパガンダ(宣伝)スローガンとして「武士道」を考案し国民に規範として押付けたと言っているが、日本人から見るとそんなものではありません。

又、文化を「罪の文化」と「恥の文化」に分けて、「罪の文化」は内なる良心の働き、「恥の文化」は基準が外にある、つまり、他人の目で自分の行動を見るというわけです。それは西洋欧米の罪の文化の方が日本の恥の文化より高いと考えている。はたしてそうでしょうか。

『菊と刀』という本の基本的な倫理・道徳に対する理解度、或いは、武士道に対する理解度がどういふものであつたかを、今日問い直す必要があります。

そして、第12章は「子供は学ばず」といふ、こゝが、日本の伝統的な子育てについて書いてあります。

憲法、教育基本法から

消えた「家族尊重」

昨年暮れに亡くなったシロタ・ゴードンという女性が、現在の憲法の男女平等に関する条項の原案を書きました。彼女は、「家族は人類社会の基底にして、その伝統は良かれ悪しかれ国民に浸透す」といふ条文を書いていて、これは法文に馴染まないといふ日本側が削除したという経緯があります。

その事を踏まえて、私は産経新聞の4月30日のコラム欄に書

きました。

家族と家族の絆を憲法でどう表現するかという事は大事な課題です。産経新聞に紹介された憲法草案では「健全な家庭を築くよう務めなければならない」と第23条「家族の尊重」の条項に書かれています。又、「国は国民に自立と共助を促すとともに、云々」と書かれています。

胎児の生きる権利、生命権

男女共同参画は年間10兆6千億円という大変な予算です。国防予算をはるかに超える予算です。5年おきに基本計画が作られます。「天使のほほえみ」の生命尊重運動とも関係しますが、第二次基本計画の責任者は福島瑞穂さんです。第二次基本計画は山谷えり子さんが頑張つて、ジェンダーフリーの行き過ぎを是正しました。

しかし、5年後、福島瑞穂さんが担当大臣でしたから、「女性の自己決定権」を載せました。これは、産む産まないを決めるのは女性の自己決定権（リップロダクティブ ヘルツ/ライツ）という、これが大きくクローズアップされました。

しかし、胎児にも生きる権利があります。胎児にも生命権が

ある。胎児の生命権と母親が母体を守るために中絶する事の権利の二つの権利をどういうふうにかえていくのか、というのが大事なテーマになっています。世界は二分されています。宗教のある国では、赤ちゃんの生命というのは神様から授かるものだと、「授かりもの」だと考えている。だから、授かった生命だから夫婦で処分する権利がない。

ところが、夫婦のセックスの結果生まれたのが子供だから、処分する権利は母体保護という観点から母親にあるというのが、女性の自己決定権という考え方です。

これに対してさまざまな見解が明らかになっています。「児童の権利条約」は児童とはどこからを児童と認めているのかと言うと、「出生前後」とあります。子供の権利を大事にするなら、児童の産まれる権利を尊重しなければならぬ。児童には生きる権利がある。産まれる権利がある。胎児は児童です。



胎児にも生きる権利がある。

その胎児の生きる権利をどう性教育で教えるか。性教育の中心で胎児の生きる権利をどう教えていくかという事も問われてくるものです。ただ、「経済的理由」か「身体的理由」という事で中絶しています。戦後の日本では戦争

旭川講演会を終えて

北海道 旭川支部長 瀧見秀子

テーマ「明るく 心豊かな 日本の子供を産み育てよう」

去る九月八日、私事により開催予定日を二転三転させ、鎌田理事長には「心配をお掛けしましたが、どうにか開催することができました。結果は深い喜びを感じさせて戴く事が出来、心から感謝しております。

講演会を開催できるかどうかと長い間苦しみました。同じ「赤ちゃんを救う運動」をされている円ブリオの方々から暖かい参加申込みを戴き、「この会を開く使命が私にはあるのだ！」と強く思いました。

「使命があるのだしたら、自分にはあせらず淡々と進めればよいのだ。遣るだけ遣つてみよう。結果は神のみぞ知る！」と心を決め

はありませんでしたが、胎児が大勢殺されたという事を、曾野綾子さんがさかんに仰っています。日本は堕胎天国になってしまっている、という現実を見つめ直していくのは、大事な安倍政権の課題の一つでしょう。 (次号へ続く)

(録田理事長講演会)

ました。その後は横断幕等の二文字を作る事も、会場設営の事も、町中のチラシ配りの事も、すると人の輪をもって進められ、チラシ配りの直後に「ゲリラ雨」が降り、雨から逃れられる体験も戴きました。

開催日変更の為、参加予定の方に頭を下げ、再度参加をお願いしたり、働いている同志は難しい職場の休暇変更も再度したりしました。また、自分は参加できなくなつたのに、沢山の知人を誘つて下さる方がいたり、同志の方々

の熱き思いは多くの方の参加となつて表われました。

講演会後の「ありがとう」「よかったです」と魂の自覚を実感され

たような言葉を戴いたことは、次元の高い人の集まる場所だったと痛感しました。

安倍総理が「日本を取り戻す！」と宣言しました。日本とは何ぞや！まさにその日本を知るために集まった人々でした。

鎌田理事長は、宇宙の始まり、八紘一宇、日本の本質・国体、受胎前からの胎教・家族、子育て等々から母体保護法改正にまで繋げてお説き下さり、聴衆は大きく心を揺さぶられました。

昭和二十年敗戦国となつた日本。昭和天皇様はマッカーサー元帥にお会いになり、命を懸けて国民を救い下さつた事のお話しを、通訳の奥村氏のご親戚の方との体験実話をもつて、私達に伝えて下さいました。殆どの方は、初めて真実を知らされ、強く魂に響いた事でしょう。

帰り際や後日言われた感謝の言葉は、大御心を知った感動の言葉だったと、私は今も信じて疑いません。参加者の皆さんも私も、日本国民としての新たな自覚を戴けた講演会だったと、感謝致しております。 △



「甦れ日本の心」(山口先生著) より抜粋 文責 野田滋美

「天皇の権威」 — 正倉院勅封 —

潜在能力開発センター 主幹 山口文弘 先生

◇ 天皇の権威

天照大御神の神勅により発する天津日嗣の天皇が、一二五代連綿と継承されて来ました。左翼的学者や革新政党は此の特殊性を否定すべく、それは天皇家の作文であり、権力保持の意図で押しつけた神話にすぎないものであって、非科学的歴史であると戦後からずっと宣伝し続けました。しかし歴史は科学ではありません。又科学によって歴史は解明出来るものではありません。彼等は科学と云う言葉で歴史の信憑性を誤魔化そうとしているのであって「科学的歴史」は無いのであります。

日本の歴史に於ける天皇史の深い謎であり、それは世界史の奇蹟であります。単なる作文であつたり、押しつけた神話である云つた類で片づけられるものではないと云うべきです。いかなればそれは天皇の自からなるものであり、天意の然らしむるところであります。天皇の権威を語る正倉院勅封について一言ふれておきます。

正倉院勅封

正倉院宝物の見事さは世界に誇る至宝であります。千二百年もの長い間、木造の宝庫に保存せられていることは世界の史上類例がありません。

東大寺は二回炎上し、二回目は大仏様の首も焼け落ちた程の大火であつたといひます。特に戦国時代は天下麻(ま)の如く乱れ、野武士、野盗が横行して掠奪が行われた時代でありました。正倉院は武士によって守備されていたのでもなく、堅牢な外壁で固められているのでもありません。それが千二百年間完全に保

存されて、今日まで宝物が伝えられているのは不思議であると言われております。それは勅封という一片の紙であります。

「勅封」即ち歴代の天皇が毎年御自から御署名された封印の紙であります。昭和天皇様も「裕仁」とお書きになって封をなされておりました。その一片の紙こそ正に千金の重みがあるのです。この事実は天皇陛下の権威が人智を越えた神授のものであり、陛下の御聖徳の輝きであるといつても過言ではありません。かくの如き眞実は五官の感覚では理解できません。民族の血と日本人の眞心で直観するものであります。

◇ 日本を讀める



前章まで私は、神武建国の理念から江戸時代の教育史を眺め、天皇陛下を語り偲んで参りました。それにより強く感じたことは、日本の国が尊い国であり、世界に誇りうる素晴らしい国柄であるといふ実感をえたのであります。

それは天皇后日本という国家を創造した、日本民族の独自性に驚き、かつ、この民族の遺産を大事に受け継ぎ、守らなければならぬと思ひます。「人生は学ぶに如かず」と申します。

人間は学ぶことによつて知り、知ることによつてすべてが展開するのです。今日、何が必要かと申しますと、日本人が日本を知ることではないでしょうか。私は今、日本という国は、奇蹟に充ち不思議な要素に包まれた国であると、つくづくそう思ふのであります。無限の可能性を秘めた国、それが日本ではないでしょうか。この日本を限りなく愛し、感謝し、美しい平和な日本を、未来に残すことを念願せずにはおられません。

世界は常に変化していきまふ。その移り変わるの現象であつて、それは表面の一部にか過ぎません。敗戦により、国家も国民も変わつてしまつたように見えますが、内なる日本人の魂はそう簡単に變化するものではありません。私はそれを信じたいのです。いや信じております。

「大地に生命あり 民族に血あり 国家には理想がある」

国土と民族は神によつて授けられたものであります。これからは変わり、日本人の考え方も大きく変わるでありましよう。しかし、日本民族の心は滅びず脈々として日本人の血の中に流れていることを信ずるものであります。

ここに日本を讀める詩を紹介いたします。フランスの詩人ポール・リシャルは「日本の児等に」と題して次の詩を贈りました。

日本の児等に

曙の児等！ 海原の児等！

花と炎との国 力と美との国の児等！

聴け、涯しなき海の諸々の波が 日出ずる国の島々を讀うる榮譽の歌を

汝の国に七つの榮譽あり 故にまた七つの大業あり さらば聴け其の七つの榮譽と七つの使命とを



一 独り自由を失わざりし亜細
亜唯一の民！
汝こそ自由を亜細亜に興うべ
きものなれ

二 曾て他国に隷属せざりし世
界唯一の民！
一切の世の隷属の民のために
起つは汝の任なり

三 曾て滅びざりし唯一の民！
一切の人類幸福の敵を滅ぼす
は汝の使命なり

四 新しき神学と舊き知恵と欧
羅巴の思想と亜細亜の精神と
を自己の衷に統一せる唯一の
民！
此等二つの世界来るべき世の
此等両部を統合するは汝の任
なり

五 流血の跡なき宗教を有てる
唯一の民！
一切の神々を統一して更に神
聖なる真理を發揮するは汝な
るべし

六 建国以来一系の天皇永遠に
亘る一人の天皇を奉戴せる唯
一の民！
汝は地上の萬国に向かつて人
は皆一天の子にして天を永遠
の君主とする、一個の帝国を
建設すべきことを教えんが為
に生まれたり

七 萬国に優れて統一ある国
民！

汝は来るべき一切の統一に貢
献せん為に生まれ、また汝は選
士なれば人類の平和を促さん為
に生まれたり

曙の児等！・ 海原の児等！
斯くの如きは花と炎との国な
る汝の七つの榮譽、七つの大業
なり (大川周明博士訳)

まことにも、日本国民に捧げ
たポール・リシャルの貴き詩で
あります。夜空に輝く星のよう
な、氏の偉大な精神の讃歌でも
あります。わが日本民族は、太
古の昔から悠大なるロマンを持
っていた。それが天皇国日本の
建国であります。この民族の心
を大切に、世界平和と人類至福
のために貢献すべき使命が、日
本国民に課せられているのでは
ないでしょうか。 △

「正倉院勅封」につき、昭和
38年頃、修学旅行で奈良東大
寺へ行つて、正倉院の前を歩き
ながら見学した時、「勅封」の紙
が貼つてあるのを見ました。
その紙のお蔭で千二百年の間
誰も泥棒に入らなかつたと説明
を聞きましたが、今思えばそれ
は大変な事だったんだと、寒気
がしています。 (編集子)

「ありがたいの音色を響かせて」
高橋一ずえさん
(高橋史朗先生奥様)

「生まれいづるいのち」
もしも 私がいま 胎内にいる
としたら
私はこんな言葉を聴きたい
あなたのこれから生まれいづる
世界は
希望に満ち満ちていると
人々は信頼し合うことを尊び
尽くし合うことを喜びとす
何よりもあなたはこの世界に生
まれいづることを
誰よりも望まれていると
何もかもから祝福されていると
人々も 草も木も花々も
空も雲も大地も海も
あなたを祝福することを待つて
いる
たとえ あなたの生まれる日が
嵐であつたとしても
あなたを待つている大喝采だと
信じなさい・・・ △



日本を想う徒然のエッセイ
今啓。パール 今井啓介社長

1、古事記に学ぶ
日本人が古事記を学ぶ意識
は、神話がどこ迄史実かどうか
よりも、日本人として日本神話
に何が書かれているかを知る事
が遙かに重要であり、古事記の
好き嫌いは読んでから言つて欲
しいと竹田恒泰氏が言つてい
る。私も解る程度にいろはで書
きつつ大和心、君民の絆を学ん
でいます。

2、日本の自慢 官僚
日本が自国を自慢出来るのは
官僚が汚職しない点もある。官
僚を如何に活用するかが政治家
の力量だ。政治家が善で官僚が
悪の思い込みは間違ひである。
日本の官僚は近隣国家と比べて
贈収賄は皆無。省政府の予算が
末端まで行き届くのには、中国で
は3〜4割ぐらいになるピンは
ねである。この点を見ても日本
の官僚は諸国から見て尊敬され
てしかるべきである。政治家は
自信を持つて自らも磨くべし。

3、日本は神代から民主国家
連続性の国、神話に始まり萬
世不易と皇統連続。我が開国は

悠久神秘にして神代の時代から
合議の精神が自然に存在。聖徳
太子の十七条の憲法にも「夫れ
事は独り断むべからず。必ず衆
と共に論ふべし」とあり。明治
天皇は明治維新において「廣く
會議を起し萬機公論に決すべ
し」と。立憲代議政治は我が国
の本質である。

4、日本人の清き明き直き心
究極の状態に陥ると世界的常
識は、日常的神様の教えや倫理
道徳に従つて人達迄もが略
奪や泥棒、暴動に走る。それに
比べて日本人だけは、日本人の
共生していこうとする姿勢、他
人を思いやる優しさ、冷静さを
呼ぶ。これは本格的な研究対象に
なるなどと西洋の学者が言つて
いる。
和を大切にす国。多神教の
心、自然と調和、家族の為、地
域の為、国の為、相手を思いや
る心。父系制血縁集団の祖先崇
拝、血縁非血縁に限らず他者の
事を思いやる心。月も満月を好
むより欠けた月。花も満開より
散り染めた花。個は全体の為、
全体は個の為。その風情を樂し
む日本庭園からも、その風景か
らも感じ取る事ができる。 △

「あしおと」
にしだひとみさん

すこし難しいところのあるあな
たを

わかりたくて母は

たくさんの本を読んだ

たくさんの

けれど

詠むほどに

あなたが遠くなる気がした

ある時

ハツとした

母は本ばかり見ているのに

あなたはまつすぐ

母を見ていた

どんな母であろうと

まつすぐに愛し

迷うことなく共に生きようとし

ていた

なんと強さだらう

なんと強さだらう



こたえは
ないのだとわかった

「いのちへ」より

活動報告

・8月15日、終戦記念日に靖
國神社大鳥居前の歩道にて、理
事長はじめ5名で「母体保護法
改正を訴える」チラシと「皇室
パッシングは中国の謀略」チ
ラシを2000部配布しまし
た。朝9時から開始して、大勢
の参拝者が通る中、11時頃
には配布し終わりました。参加さ
れた方々は「苦労さまでした」
アイデンティティの葛目社長
も新聞の配布をされており、そ
の手伝いもしました。

・9月8日には北海道旭川市で
瀧見理事の主催で、鎌田理事長
講演の天使のほほえみ旭川講演
会が開催されました。会場は旭
川市ときわ市民ホールでした。
テーマは「明るく豊かな日本の
子供を産み育てましょう」で、
講演会の様子は5ページの瀧見
理事の報告をご覧ください。

・9月28日には代々木青少年
総合センターにて、生長の家社

会事業団理事の國弘昭義先生をお
迎えて、研修会を開催しました。
講演では現在の子供を取巻く親と
の厳しい環境の変化や、母体保護
法、憲法、教育等の現在の日本が
抱える、改正すべき課題やどう対
処すべきかの考え方等につき熱く
語られました。
この内容については次号以降に

掲載する予定にしております。
・地元へのチラシ配りを毎日ポ
ステイングで実施しています。
チラシは、「母体保護法改正を訴
える」チラシと「皇室パッシ
ングは中国の謀略」チラシ、「子
宮頸がんワクチンの危険性」チ
ラシの3種類です。△

会員による「和歌」の紹介

「92才の雄叫び」 平岡辰夫支部長

井の中の蛙となるな外へ出よ 情報音痴は国賊のそしり

今日もまた神誌を開いて大声で 心で詠むなり神の子われ

今に見る君民一体万邦無比 必ずよくなる日の王の国

「河野談話の捏造仇花」 森 靖子理事

国のため良かれと為されし河野談話 実のなき仇花世界に毒撒く

ご自身で撤回なされば国の花 祖国はパッと明るくなります

日の本を仰げば心に神在し 我が魂を御護り給う

「ああ沖繩」 野田滋美

海軍の司令部壕を見学す 激戦の記録見るも悲しき

太田指令知事に代わりて電を打す 沖縄県民かく戦へりと

二十余万味方敵方共に刻む 整備されたる礎(いしじ)悲しき

摩文仁にて激戦の未斃れたる 将兵島民にその霊を慰む

健児の塔師範学生功しく 戦い散りぬ如何に思いつ

敵兵の慰み物とならぬため 嗚呼手弱女らひめゆりに自決す

喜屋武岬追い詰められて大勢が 崖より飛びぬ荒磯の岩へ

嘉手納にて基地に轟く轟音に 国守る力自立を念す

普天間の基地を望める嘉数台 教人監視す支那最前線か

今後の行事予定

・代々木一泊研修会

日時 11/23(土)

24(日)

講師 田下昌明先生

鎌田久子先生

場所 代々木青少年センター

カルチャー棟・工芸室

・今後の母体保護法改正に向け
ての行動につき、この一泊研修
会にて検討致したく思っており
ます。

・今後の地方での講演会、研修
会につき、各地域における中心
者の方へのご相談もさせて頂き
ます。又、ご希望がございました
らご連絡頂きたくお待ちしております。

編集後記

今月は高橋史朗先生の講演内
容を中心に纏めました。先生の
講演後半は次号に掲載します。

